



村上税務署長賞

『笑顔のその先に』

村上市立荒川中学校 3年
大島 瑠奈 さん

「このお金はどこから来ていると思う？税金からなんだよ。」

去年の春先。久しぶりに見ることのできた父の笑顔。私も社会に目をむけていくことが増えていく中で、父とのそんな会話が多くなりました。それまで、税金と言われてもイマイチしっくりこなく、「何で税金は払わなくてはいけないのか。」と身近にありながらも税金に対してあまりいいイメージは持てていませんでした。

日本中、世界中を変えた新型コロナウイルス。問題は感染拡大のみにとどまらず、事業経営者の売り上げへの影響。百八十度変わった生活様式。そして休校などと、様々な形で私達を変えたこのウイルスですが、私の身近でも、思わぬ形で影響は出ていたのです。

去年の休校中。田舎の小さな美容室を経営している両親から、新型コロナウイルス感染拡大の影響で売り上げが厳しい状況だということを知られました。

「今日、実は父さん一人で涙ぐんでて・・・」信じがたい知らせと母からの一言、そして目に見える家族の重苦しい雰囲気から、私は事の重大さを知りました。

そんな父へ一通の手紙とともに知らされたのが国からの雇用調整助成金の給

付の通知でした。わずかながらではありながらも得ることのできた安心感からなのか、その日は久しぶりに父の笑顔を見ることができたのです。それと同時に、この、給付金も私達の暮らしも、税金があってこそ支えられているんだということを知っていくきっかけとなりました。

ケガをしたらすぐに医療に頼れるといった地域医療の充実さも、交通環境が整い、安心安全で過ごせるという事も、あたり前のように思っていたことの多くに税金が使われていました。このことから、税金は国に納めなければいけないというマイナスなイメージから、安心安全に過ごせるための一生の保障金なんだというふうに感じるようになりました。

少子高齢化という問題にも向き合う中で、いつ何な時何どききが起こるのかが分からないこの時だからこそ、これからの社会を、担っていく私達は、笑顔の輝く世の中のため、納税の義務を尊重すべきです。今の私達にとって納税というのは、まだあまり身近に感じる事ができないかもしれません。ですが、以前の私のように、税金に対してマイナスなイメージを持っている人を少しでも減らしていくことが、大切な一歩になると、私は思います。

一人でも多くの人の笑顔のその先に。さらなるこの社会の充実と発展を、私は信じます。そのための一手は、私達の納税への想いです。

